

国際学術論文公開奨励研究費による支援(2023年度)FAQ

Q1. ハイブリッドOA(エンバーゴ期間があるものなど)も対象になるか?

A1. 対象となります。

Q2. 支給された研究費に利用期限はあるのか?

A2. 支給された年度の翌年度末までとしております。

期限を過ぎて未使用額がある場合は返却いただくこととします。

Q3. 過去のOA誌投稿も遡って申請可能か?

A3. 論文掲載後、3か月以内の申請としています。それ以前の掲載については支援の対象とはなりません。なお、本制度開始年度(2023年度)に限り、以下の期間も支援対象とします。

【2022年1月1日~2023年2月28日】

Q4. 年度をまたがる申請も可能か?例えば、3月掲載の論文に対して4月に申請など。

A4. 可能です。年度またがりに関係なく、論文掲載後、3か月以内の申請としています。

Q5. 年度末に掲載された場合、同年度の予算がなく支援対象とならなかった場合、次年度に再申請することはできるか?

A5. 掲載後3か月以内という条件はありますが、次年度に再申請いただくことは可能です。

Q6. 無償のOA誌に掲載された場合もいくらかの研究費はもらえるのか?

A6. 有償のOA誌掲載を対象として、実費額(上限あり)を支給することとしています。無償のOA誌に掲載された場合は研究費の支給はありません。

Q7. TOP5%,TOP10%は、何に基づいて判断するのか?

A7. 公開されている最新のCite Score等の情報を用いて判断します。Scopusの収録誌情報等から確認できます。

<https://www.scopus.com/sources.uri?zone=TopNavBar&origin=searchbasic>

Q8. 本支援を受けられるかどうかによって、OA化するかどうか判断したい。OA論文掲載後ではなく、論文掲載が決定した時点で本申請に申し込み、支援を受けられることを確認した後、出版社にOA化の依頼をしたい。このような場合はどうすればよいか?

A8. 申請 form から OA 化を前提とした申請をお願いします。OA 化後でなければ決定しない入力項目(対象となるオープンアクセス誌の発行年月日、掲載論文が確認できる情報(URL、DOI など))については、「論文掲載決定段階であり現時点で未定」など、その理由を記入してください。「論文掲載料を支払った予算の種類」及び「論文掲載料(APC: Article Processing Charge)の金額」については、支払予定の予算の種類及び金額を記入してください。以上の項目に関しては、確定次第、あらためて情報提供をお願いいたします。

また、申請 form 入力後、論文掲載が確定していることを確認できる証憑(出版社からの通知文書など)を研究企画課までメール等でお送りください。

この場合、奨励研究費の執行が可能になるのは(奨励研究費が支給されるのは)、OA 化された論文及び論文掲載料を支払った予算の支払い情報が確認できた後となります。

Q9. 「本学専任教員(任期付教員を含む)が筆頭著者または責任著者」という要件になっているが、研究分野や対象となるジャーナルによっては、著者名をアルファベット順に掲載するというルールに基づく場合がある(キロオサーペーパーにおいて同様の扱いがなされている事例もある)。このように「筆頭著者」「責任著者」といった概念がない場合(著者の並び順に特別な意味がない場合)、どのように申請すればよいか?

A9. 研究分野や対象となるジャーナルの規定等によって、著者名をアルファベット順に掲載するなどの扱いになっている場合は、申請 form の「6. 論文執筆にあたっての役割」欄において「その他」を選択いただき、その理由を簡潔に補足説明願います。他の申請要件を満足し、申請者(本学専任教員(任期付教員を含む))による論文掲載料(APC: Article Processing Charge)の支払いの確認をもって支援対象の判断をさせていただきます。

Q10. 論文掲載料(APC: Article Processing Charge)が外貨(ドル、ユーロなど)で決まっている場合、奨励研究費の金額(円貨)はどのように決まるのか?

A10. 申請時に入力いただいた情報に基づき、実際の支払金額(円貨)を研究費の管理部課等に確認いたします。支払金額が支援の上限額(25万円または50万円)を超えている場合は上限額、上限額に満たない場合は支払金額となります。なお、外貨払いの場合、支払金額(円貨)が1円単位の金額になることがありますが、奨励研究費の支給額は、円換算後の千円単位(切り捨て)の金額とさせていただきます(例:2,350ドル→266,725円の場合、支援額は266,000円とします)。

(2023.5.25 追記)

Q11. 1年に複数の論文掲載を目指している。複数回の支援は受けられないか?

A11. 年度あたりの予算が限られていること、広く支援を行うこと等の観点から、「1研究者につき、申請件数は1件/年度までとします。」とさせていただきます。

(2023.5.25 追記)

Q12. 「2023年度に限り、2022年度にオープンアクセス誌に掲載された論文(※期間以外の条件は同じ)を対象として、別枠で支援を実施します。」という記載がある。「1 研究者につき、申請件数は 1 件/年度までとします。」となっているが、2023年度に限り、2022年度にオープンアクセス誌に掲載された論文と2023年度にオープンアクセス誌に掲載された論文の2回にわたる支援が受けられるという理解でよいか?

A12. その通りです。2023年度に限り、2022年度にオープンアクセス誌に掲載された論文を対象として、「別枠」にて支援を実施します。

(2023.5.25 追記)

Q13. 申請の要件が「本学専任教員(任期付教員を含む)が筆頭著者または責任著者」となっているが、1つの論文において筆頭著者および責任著者がともに同志社大学の専任教員の場合、2人の専任教員(筆頭著者、責任著者)のいずれから申請可能か?

A13. いずれから申請は可能ですが、1つの論文に対しての支援は 1 度限り、つまり、筆頭著者または責任著者いずれかに対する支援となります。1つの論文において、複数の専任教員が本支援の申請の権利を有する場合は、関係者にてあらかじめご相談の上、申請いただきますようお願いいたします。